

# 「株式会社 姫路シティFM21」

## 第29回 放送番組審議機関 審議会議事録

1. 開催日時 平成19年8月25日(土曜日) 午後1時30分～午後3時

2. 開催場所 姫路市本町68イーグレひめじ地下2階ミーティングルーム

### 3. 出席状況

1) 委員総数 11名

2) 出席委員数 6名

3) 出席委員の氏名(敬称略、順不同)

大谷 昭仁 有馬 妙子 岩成 孝

梅宮 功 上田 達也 段 秀和

4) 欠席委員の氏名(敬称略、順不同)

柳谷 郁子 勝木 洋子 笹間 清二

榎 直登 岸田 直美

5) 会社側出席者氏名

石塚 勝行 (専務取締役 放送部長)

山南 俊雄 (常務取締役 営業部長)

小幡 博 (営業企画 課長 兼 放送総務 課長)

小林 寛幸 (編成制作 担当)

### 4. 議題

資料をもとに説明

#### (1) 事業報告

- ・平成19年5月からの事業報告
- ・防災関連放送について
- ・読書フェスティバル、むかし話コーナーについて
- ・サテライト放送について
- ・開局6周年記念公開放送について
- ・総合防災訓練について
- ・緊急地震速報について
- ・火災発生情報の提供について

## 5. 審議内容

- 岩成委員 大雨のときに地域の被害状況の把握ができない。  
先日の豪雨の際もあっというまに水が一杯になった。  
FMゲンキが被害状況を調査することはできるのか？
- 石塚専務 FMゲンキとしての情報入手先は、おもに姫路市消防局からとなる。  
裏づけのない情報は放送しにくい面がある。  
基本的には消防局からの情報が主ではあるが、ボランティアクラブの  
GENKI ラジオクラブからの情報も活用していきたい。  
また、直接スタッフが取材に行くという手段もあるが、現在の人員から  
は放送を継続するだけで手一杯であり、難しい。  
市内在住のパーソナリティからの情報などを入手する手段を考えたい。
- 岩成委員 災害時は電話が通じない。情報が捕らえられない中でのラジオの役割は  
大きなものだと思う。
- 石塚専務 先日、地震による大きな被害があった柏崎市にもコミュニティFMが  
ある。ここは、地震発生後から24時間放送を継続していた。  
インターネットでも放送を行なっているので聴いてみたところ、  
避難所の食料配布状況や仮設風呂の情報など、まさに決め細やかな  
情報を発信していた。われわれも、災害放送のイメージを持つ事が  
できた。  
FMゲンキでも、放送スタッフがいない深夜や早朝に災害が発生した  
場合に備えて、営業社員を含む全社員での放送訓練を継続して実施  
している。
- 大谷会長 信頼ある情報を収集するという事は、大切である。  
災害時は、インターネットも活用できるのではないだろうか。
- 石塚専務 FMゲンキとしてはインターネットを利用した情報発信にも力を入  
れている。
- 小林担当 FMゲンキのインターネットは、文字情報と音声情報の発信であると  
考えている。文字情報については、スタッフが更新できるように  
しているので、災害時においても、インターネットを通じての情報  
発信ができる。  
音声によるインターネット放送については、機材の問題があるが、  
できる範囲でスタートさせていく予定である。
- 有馬委員 パソコンや電話には、雷が落ちやすいと聞いた。テレビやパソコンだけ  
に情報入手を頼るのは難しい。
- 小林担当 FMゲンキでは、災害時優先携帯電話を配備している。輻輳時でも、  
基地局が損壊しない限り利用できる。  
一般の携帯電話はかかりにくくなるため、社員間の情報発信については  
メールを利用した同報発信ができるようにしている。
- 有馬委員 小学校でもメールを利用した緊急情報提供をしている。

- 深夜や早朝に災害があった場合は、どのように対応するのか？
- 小林担当 万一にも迅速に対応できるよう、消防局に簡単な放送設備を設置している。
- 有馬委員 停電があった場合はどうするのか？
- 小林担当 停電に備えて、スタジオと送信所に発電装置を準備している。スタジオは6時間程度、送信所は20時間程度稼働する。特に無人状態の送信所に関しては、月1回スタッフが山に登って、送信所を停電状態にし、機器が稼働するかテストしている。
- 岩成委員 今年で3回目の配布となったGENKIラジオ新聞の効果で、災害時はラジオを聞こうという意識があがってきていると感じている。
- 石塚専務 FMゲンキは姫路市と市内を中心にした48社が出資した放送局であるが、近隣市町も巻き込んだ展開をしていきたい。とくに災害時の情報発信については、協力していきたい。
- 大谷会長 火災情報について、消防局の音声が入り込まれるのか？
- 小林担当 放送は、当社のパーソナリティがスタジオから行なう。消防局からは、FMゲンキに電話で自動的に連絡がある。それを局スタッフが原稿化し、放送する。
- 生放送のパーソナリティが放送するので、例えば乾燥時期などは、火の取り扱いに対する注意を喚起するなど、リスナーに伝わりやすい放送ができる。
- 梅宮委員 イオン大津SCの公開録音を見たが、老若男女、多くの方が見ていた。公開録音はFMゲンキのアピールにもなり、良いことだと思う。
- 石塚専務 人間的な問題もあるが、可能な限り取り組んでいきたい。
- 大谷会長 K i s s - FMのサテライト開設にあたって、FMゲンキには、話があったのか？
- 石塚専務 特にありませんでした。
- 大谷会長 大学生が出演する番組について、大学からの協賛はあるのか？
- 小林担当 地元大学と地元放送局との協力という教育的見地から実施しており、現状は局の持ち出しで行っているが、将来的にはなんらかのCM等があればありがたいと考えている。

午後3時、以上の報告・討議・検討を終了し、閉会した。

公表年月日 平成19年8月27日

公表内容 審議の概要

公表方法 自社放送7時00分～09時00分「きょうもGENKIで！」内  
事務所据え置き、ホームページ (<http://www.fm-genki.com>)